

## 特集2: 持続可能な社会の実現とレジリエントな企業であるために

# 持続可能な社会の実現と レジリエントな企業であるために



積水化学グループは、企業価値向上やステークホルダーとの信頼関係構築のために建設的な対話を図る「ステークホルダーエンゲージメント」を推進するとともに、財務的・環境的・社会的側面から見て重要な企業情報を積極的に開示する方針を定めています。また、現中期経営計画「SHIFT 2019 -Fusion-」(2017-2019年度)における基本戦略として、ESG視点での持続可能な経営基盤構築を掲げ、その推進に取り組んでいます。

特にE(環境)に関しては、他の企業に先駆け、「エコロジーとエコノミーの両立」を提唱し、現在は環境長期ビジョン「SEKISUI環境サステナブルビジョン2030」達成に向けて、“生物多様性が保全された地球”(=SDGsが達成され

## SEKISUI環境サステナブルビジョン2030



### 2030年ターゲット

- 自然資本の利用に対するリターン率:100%以上
- GHG排出量:2013年度比で26%削減

※2013年策定、2014年公表。自然資本プロトコルの考えを採用

## 特集2: 持続可能な社会の実現とレジリエントな企業であるために

た地球)の実現への貢献を図るため、環境課題の中でも特に影響が大きいと考える気候変動課題に意欲的に取り組んでいます。2018年6月には化学セクターとして世界で初めてSBT認証を取得し、2030年度までに自社およびサプライチェーンを含むGHG排出量削減を推進しています。また長期にわたって企業が受けるリスクや機会を分析するとともに、その対処および課題に対する戦略を検討し実行していくことが、企業および地球の持続可能性を高めるうえ

で重要だと考えており、2019年1月に気候変動が企業の財務に与える影響の分析・情報開示を推奨する提言を行うTCFDへの賛同を表明しました。TCFD提言で求められている情報開示の姿勢に賛同し、関連する情報の開示を推進していくことで、ステークホルダーとの信頼関係を含めた持続可能な経営基盤の構築を図り、レジリエントな企業であるために、さらに取り組みを進化させていきます。

2019年度から「ESGを経営のど真ん中に、新たな飛躍

を目指す」を方針に掲げ、「未来への成長投資」「たゆまぬ構造改革」を着実に実施するとともに、長期を見据えた「経営基盤の磨き上げ」に取り組んでいます。また持続可能な企業経営のため、ESG視点での課題把握と解決の推進が不可欠と考え、取り組みの充実と加速を目指し、ESG経営推進部を発足させました。

### 中期経営計画 [SHIFT 2019 -Fusion-]

- 「量的成長」・「質的転換」両立
- 社会への責任を伴った持続的な成長



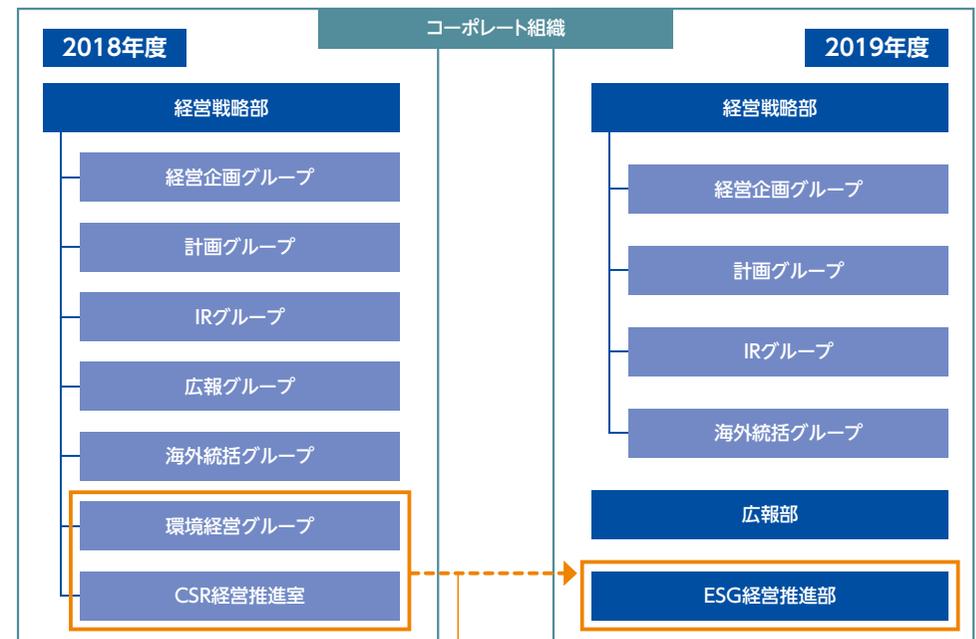
#### 基本戦略

“経営基盤”の強化

“3つの取り組み”  
「融合-Fusion-」  
による加速

- 技術の融合
- 機会の融合
- リソースの融合

### 「ESGを経営のど真ん中に、新たな飛躍を目指す」ための組織変革



“環境”を軸に本業と一体となった取り組みをさらに加速するためにESG経営推進部として発足

## 特集2: 持続可能な社会の実現とレジリエントな企業であるために

## 事業活動を通じたSDGsへの貢献 環境に関する取り組みの全体像

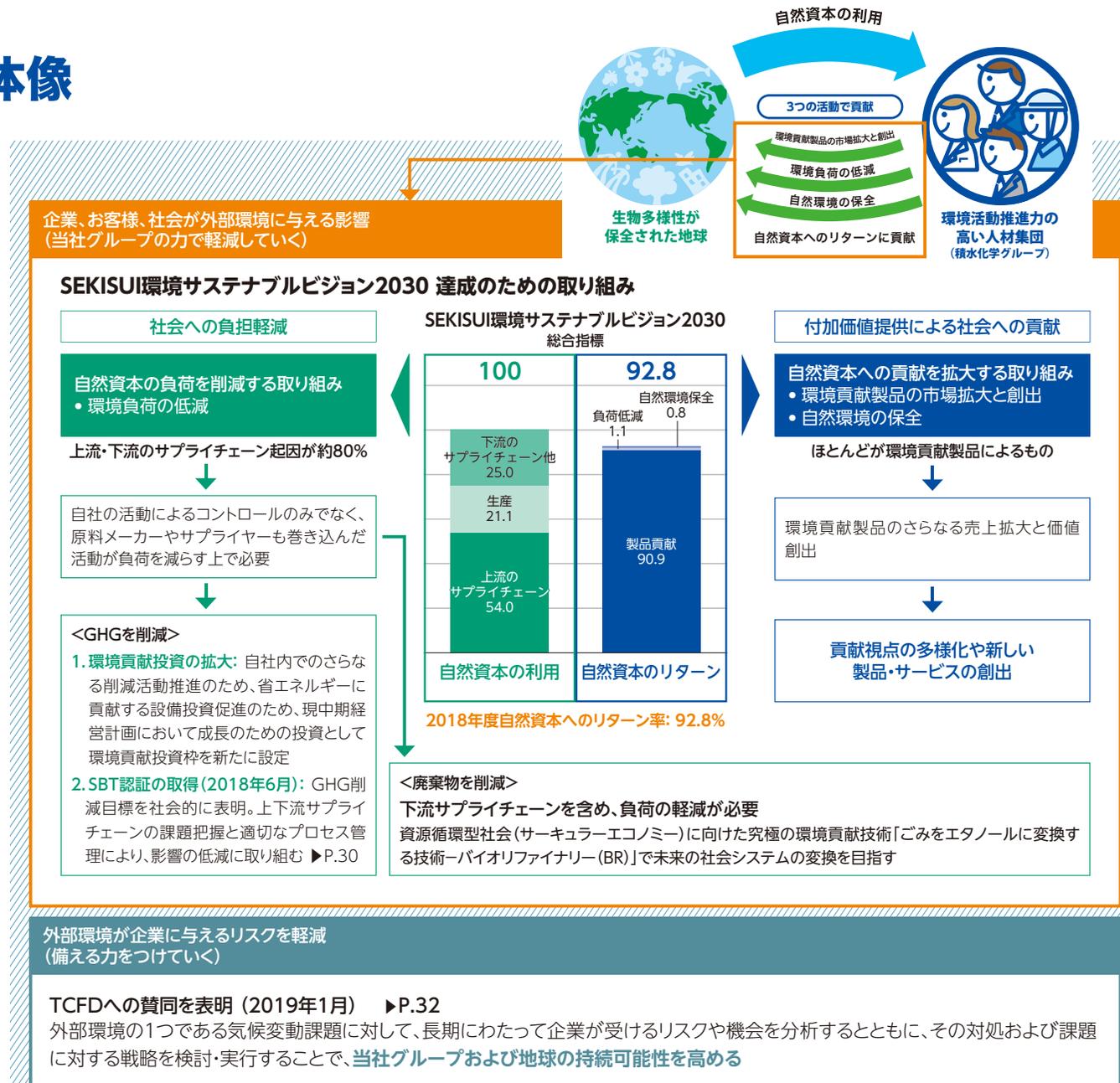
積水化学グループは、事業活動が自然資本に依存していることを認識しています。経営層および社員一人ひとりが“環境活動推進力の高い人材”へと進化を図るとともに「SEKISUI環境サステナブルビジョン2030」において、2030年には“地球から授かったもの以上に地球に返していく”ために、「環境貢献製品の市場拡大と創出」「環境負荷の低減」「自然環境の保全」の3つの活動による貢献を軸に環境経営を推進していきます。そして、「自然資本へのリターンに貢献」していくことで、“生物多様性が保全された地球”の実現に向けて際立つ価値を創造しつづけます。

またグローバル規模の社会課題と認識する気候変動が当グループの事業に及ぼす「リスク」と「機会」については、その大きさや影響範囲、項目などを把握しています。把握した「リスク」に関してはその軽減策を検討し、「機会」に関しては製品・サービスへの展開を通じた新しいビジネスの創出を検討しています。このようなマネジメントを行うことで、将来にわたって事業の持続が可能で、社会から存続を求められる会社になることができると考えています。

環境に関する取り組みの詳細はCSRレポート2019をご覧ください。

<https://www.sekisui.co.jp/csr/report/index.html>

## SEKISUI環境サステナブルビジョン2030



## 特集2: 持続可能な社会の実現とレジリエントな企業であるために

## 事業活動を通じたSDGsへの貢献

## 環境貢献製品の市場拡大と創出

積水化学グループは、創業以来、社会課題に向き合い、その解決につながる製品を世に送り出すことで、人々のくらしと地球環境の向上に貢献してきました。

SDGsで提唱されている地球規模の社会課題。それは大きな普遍的ニーズであり、持続可能な社会の実現に事業

で貢献することがグループの成長、発展につながると確信しています。グループビジョンの中でも「地球環境の向上」および「世界のひとびとのくらしの向上」、すなわちSDGsで提唱されている課題解決に対して、本業である事業活動を通じて貢献していくことを宣言しています。従来より、

課題解決への貢献度が高い製品を環境貢献製品と認定し、「地球環境の向上」への貢献を高めるべく、その創出・市場拡大に努めてきました。2017年度からは、業容・社会環境の変化を鑑みて、「世界のひとびとのくらしの向上」への貢献を高める製品の創出・拡大を宣言しています。

## 環境貢献製品に関する取り組みの経緯



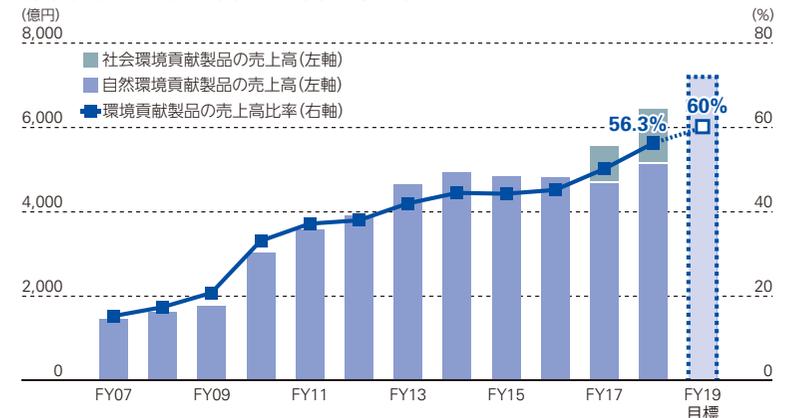
## 環境貢献製品の定義

- お客様および社会の環境負荷低減に確実に貢献できる製品・事業
- 従来製品・システムと比べ、一定レベル以上の環境負荷低減効果を有するもの
- 社外有識者会議により、社内基準および登録に関する透明性を担保

## 環境貢献製品の定義拡充について(2017年度より)



## 環境貢献製品売上高・売上高比率推移



## 特集2: 持続可能な社会の実現とレジリエントな企業であるために

## 事業活動を通じたSDGsへの貢献

## グループ全体に広がる環境貢献製品

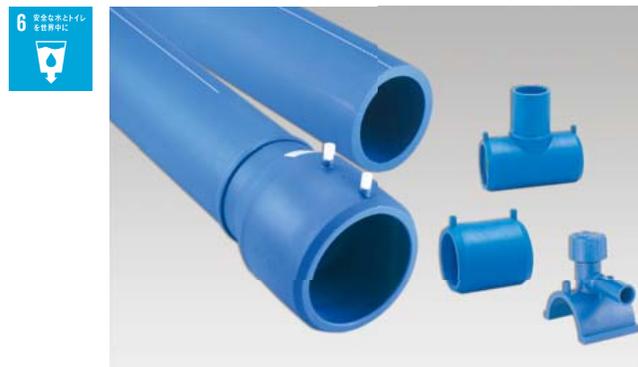
当社は2009年に国連グローバル・コンパクトへの支持を表明するなど、国際機関や国際ルールへの積極的な関与を推進してきました。ここでは、国連が主導になってまとめたアジェンダ「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち、グループが事業活動を通じて貢献している製品・サービスをご紹介します。



### 12 つくる責任 つかう責任

## ポリエチレン管 エスロハイパーシリーズ

電気融着接合で管と継手を一体化することにより、漏水しない上水道管。漏水を防ぎ、資源(水)利用の効率化により資源循環に寄与



### 13 気候変動に具体的な対策を

## 太陽光発電システム搭載住宅



太陽光発電と蓄電池、HEMSで創・省・蓄エネを可能にした住宅。居住におけるCO<sub>2</sub>を削減し、気候変動の緩和に寄与



### 11 住み続けられるまちづくりを

## クロスウェーブ

雨水を地下の貯水槽に貯水して、再利用または流出抑制する地下貯水システムの貯留材。COP23日本パビリオンにおいて、気候変動の適応事例10として政府(経産省)より紹介された



### 13 気候変動に具体的な対策を

## フィルム型リチウムイオンバッテリー



フィルム化により大容量化を可能にし、再エネ有効活用を促進し、気候変動の緩和に寄与



### 11 住み続けられるまちづくりを

## 環境にやさしい サステナブルなまちづくり

埼玉県朝霞市に創出する戸建住宅、商業施設、集合住宅を複合したまちづくり「SEKISUI Safe&Sound Project」。積水化学グループの製品・技術・ノウハウを融合させ、安心・安全で、環境にやさしく、サステナブルなまちの構築を図る



## 特集2: 持続可能な社会の実現とレジリエントな企業であるために

## 環境貢献製品の例

13 気候変動に  
具体的な対策を

## タイにおける住宅

タイで生産・販売している省エネ性と耐久性を備えた住宅。  
タイでのCO<sub>2</sub>削減に貢献し、気候変動の緩和に寄与

11 住み続けられる  
まちづくりを9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう

## 管路更生SPR工法

老朽化が進む下水道を非開削工法によって、短い工期で更生し、強靱化

6 安全な水とトイレ  
を世界中に11 住み続けられる  
まちづくりを12 つくる責任  
つかう責任13 気候変動に  
具体的な対策を13 気候変動に  
具体的な対策を

## 自動車用遮音・遮熱中間膜

エアコン効率化やガラス薄肉化により車両走行時のCO<sub>2</sub>を削減し、気候変動の緩和に寄与

11 住み続けられる  
まちづくりを3 すべての人に  
健康と福祉を

## ウイルス性疾患の検査薬

ウイルスに感染しているかどうかを診断する検査薬。病気の早期発見につながり、健康寿命を延長

1 貧困を  
なくそう9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう

## 合成木材FFU

高い耐久性を有する合成木材。線路のまくら木として活用され、モビリティ走行の安全を強化

11 住み続けられる  
まちづくりを12 つくる責任  
つかう責任12 つくる責任  
つかう責任ごみからつくるエタノール  
(バイオリファイナリー/BR)

可燃性のごみ(分別不要)をガス化し、このガスをえさにする微生物の方でエタノールの生産を実現。石油資源を使用しない、廃棄物を活用する、製造プロセスでGHG排出がない等、究極の資源循環社会システムの創世に寄与

9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう13 気候変動に  
具体的な対策を17 パートナシップで  
目標を達成しよう

## 特集2: 持続可能な社会の実現とレジリエントな企業であるために

## 環境負荷の低減への取り組み

## SBT認証の取得による推進

積水化学グループは、化石燃料や木材など地球の財産(自然資本)を利用して事業を行っています。かけがえのない地球環境と持続可能な事業の両立に向け、「環境負荷の低減」のため、原材料の調達から開発・生産・輸送・使用の各段階にわたって温室効果ガス(GHG)排出量の削減に取り

組んでいます。

気候変動課題の解決に対する取り組みについて、事業全体およびサプライチェーンに対して掲げたGHG排出削減の中長期目標が国際的なフレームワークのもと科学的に根拠のある意欲的な水準であることを示すため、「SBTイ

ニシアチブ」での認証を申請し、化学業界としては世界で初めて承認されました。

今後ますます、業界の牽引役としての責任を認識し、社会全体での気候変動対策への取り組みをリードしていく活動、働きかけを心がけていきます。

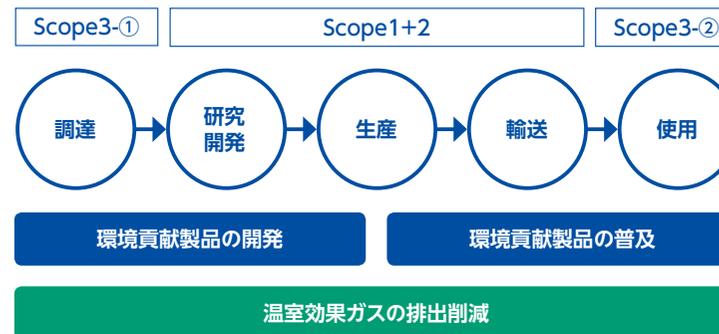
## SBT宣言内容

GHG排出量削減目標		
Scope1+2	2030年度に▲26%(13年度比)	
Scope3	2030年度に▲27%(16年度比)	
(サプライチェーン)	購入した原材料	2030年に▲20%(16年度比)
	販売した製品の使用	2030年に▲50%(16年度比)



※SBT: Science Based Targetsの略称。パリ協定の採択を契機として国連グローバルコンパクトをはじめとする共同イニシアチブが提唱。SBTイニシアチブにより、企業が定めた温室効果ガス削減目標が、長期的な気候変動対策に貢献する科学的に整合した目標(SBT)であることが認定される。

## サプライチェーン全体で、GHG排出量を削減



	SBTにおける定義	GHG排出量削減達成のための具体的な施策
Scope1	事業者からの直接排出、製造プロセスにおける燃料の使用等	環境貢献投資での設備改善等に加え、エネルギー消費革新やエネルギー調達革新等を推進し、GHGを削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境貢献投資枠: 省エネルギーに貢献する設備投資促進のため、現中期計画の戦略投資内に設定</li> <li>エネルギー消費革新: 生産革新、エネルギー消費量の削減</li> <li>エネルギー調達革新: エネルギー調達、創エネ、使い方の変更による削減</li> </ul>
Scope2	エネルギー起源の間接排出、製造プロセスにおける購入電力等	
Scope3	その他の間接排出、サプライチェーンでの製造、輸送、お客様での製品の使用、廃棄等	① 原材料に関しては、新規材料採用時の選定基準を見直すとともに、購入量の大きい原材料における削減を推進するため、サプライチェーンを巻き込んだ活動を行い、2030年度までに2016年度比で20%削減 ② 製品の使用段階に関しては、販売する住宅のZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)仕様比率を向上させていくことで住宅使用時のエネルギー削減に寄与し、2030年度までに2016年度比で50%削減

特集2: 持続可能な社会の実現とレジリエントな企業であるために

## 資源循環型社会(サーキュラーエコノミー)実現に向けた取り組み

### 資源循環型社会に向けた究極の環境貢献技術 —ごみをエタノールに変換「バイオリファイナリー」—

資源循環型社会に向けた究極の環境貢献技術として、ごみをエタノールに変換する技術「バイオリファイナリー」の革新的生産技術を確立し、社会システムを変える第一歩として事業化に向けた取り組みを加速しています。

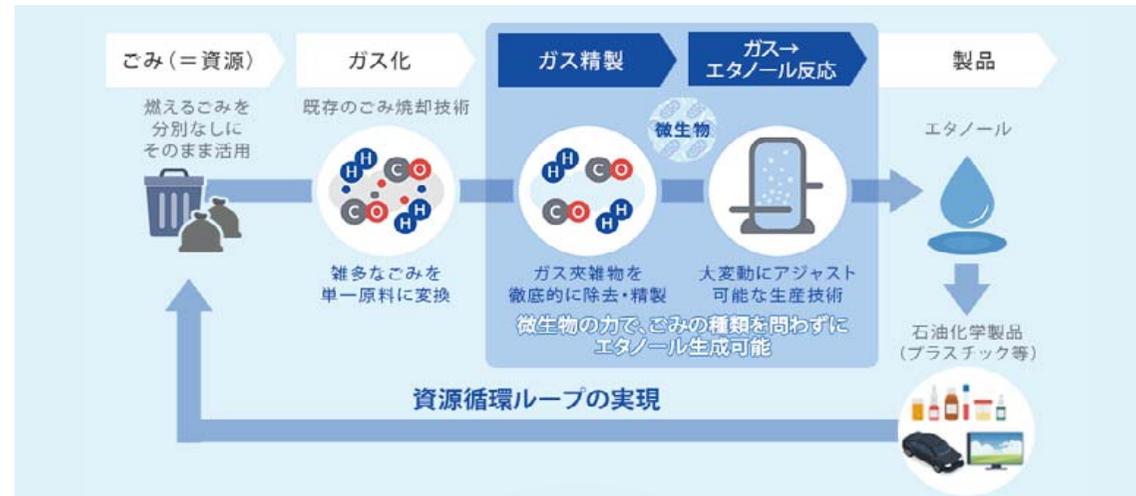


2019年度には最終想定スケールの1/10の実用プラント建設に着手(写真は1/1000スケールのプラント)

### マイクロプラスチックによる海洋汚染問題への対応—廃棄物に関する社会的責任—

積水化学グループは、自社の生産プロセスから排出される廃棄物に関しては、廃棄物業者と manifests を交わし、適正な処理が行われるよう確認を行っています。昨今、「マイクロプラスチックによる海洋汚染」が問題となっておりますが、当社グループでは、溶出を前提とした用途での一次マイクロプラスチックの製造販売は行っておりません。ただし、販売した製品が社会で使用される中で、またはその使用後に適正な廃棄が行われなかった場合には、マイクロ化する可能性は否定できません。適正な廃棄物処理を行うために、産官学との連携を図り、早期の課題解決を目指し、検討しています。

### ごみをエタノールに変換する世界初の技術「バイオリファイナリー」—究極の資源循環社会システム—



### 将来像



## 特集2: 持続可能な社会の実現とレジリエントな企業であるために

## レジリエントな企業であるために TCFDへの賛同と気候変動課題への対応

積水化学グループでは、気候変動は環境課題の中でも取り組むべき優先順位が高い課題であり、経営に影響を及ぼす重要な外部環境要因であることを認識し、2019年1月にTCFD\* (気候関連財務情報開示) への賛同を行い、関連の取り組みを本格化しています。

※TCFD:2015年に金融システムの安定化を図る国際的組織である金融安定理事会(FSB)により設立された気候変動関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)。気候変動が企業の財務に与える影響の分析を行い、対応に関する戦略についての情報開示を推奨している。

当社の取締役会では、外部環境が経営やそのサステナビリティに及ぼすリスクに関して議論され、気候変動が当社に与える影響(リスク)にどのように適応し、事業の持続可能性を高めていくかの検討を行っています。具体的には、5分野(住宅、インフラ、車輻・輸送、メディカル、エネルギー)に対して、気候変動の2℃シナリオ、4℃シナリオの2つの気候変動シナリオに基づいて移行および物理リスクが及ぼす影響を判断し、当社の事業におけるリスクや機会を検討しました。

その検討を経て、2019年7月にはTCFDから開示を推奨されている「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の4項目で、当社グループの気候変動課題への対応を開示しました。

今後は、TCFDに基づく開示を継続するとともに、あらゆるシナリオが実現しても、地球のサステナビリティ向上への貢献と持続的な成長を継続できるサステナビリティの高い企業となるべく取り組んでいきます。

[TCFDの提言に基づく情報開示]の詳細については、CSRのウェブサイトからダウンロードしてご覧ください。

[https://www.sekisui.co.jp/csr/pdf/csr\\_tcfid.pdf](https://www.sekisui.co.jp/csr/pdf/csr_tcfid.pdf)

### 想定した4つのシナリオ社会

気候変動を抑制するため様々な施策が取られるシナリオ

(A) 脱化石スマート社会



(B) 循環持続社会



(D) 大量消費社会



(C) 地産地消社会



都市集中が進むシナリオ

地方分散が進むシナリオ

気候変動により気温上昇して災害頻発に備えるシナリオ

## 2018年度における社外からの主な評価

### CSR全般

- DJSI [World] 選定
- Robeco SAM サステナビリティ格付け [Bronze Class]
- FTSE4Good Index Series 選定
- FTSE Blossom Japan Index 選定
- MSCI ESG Leaders Indexes 選定
- MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数 選定
- Ethibel PIONEER and Ethibel EXCELLENCE 選定
- 世界で最も持続性の高い企業100社 [2019 Global 100 Most Sustainable Corporations in the World index] 選出
- S&P / JPXカーボン・エフィシエント指数 構成銘柄 選定

### 環境

2018年「CDP 気候変動Aリスト」企業に選定



"Sekisui Chemical Co. Ltd. has been reconfirmed for inclusion in the Ethibel PIONEER and Ethibel EXCELLENCE Investment Registers since 09/12/2016. This selection by Forum ETHIBEL (www.forumethibel.org) indicates that the company can be qualified as a sector leader in terms of Corporate Social Responsibility (CSR)."



<https://www.corporateknights.com/reports/global-100/>



FTSE4Good

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/FTSE4good>



FTSE Blossom  
Japan

<https://www.ftserussell.com/ja/index/spotlight/ftse-blossom-japan>



THE INCLUSION OF SEKISUI CHEMICAL CO.,LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN,

DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF SEKISUI CHEMICAL CO.,LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES.

THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

